

研究成果報告（要旨）

2026 年 1 月

自閉スペクトラム症児の受診困難に対する支援と親の心理的負担の軽減

指導 石川 利江 教授

国際学術研究科

国際学術専攻

心理学実践研究学位プログラム ポジティブ心理分野

223J2951

山田 芙美子

Research Paper (Abstract)
January 2026

Support for Children with Autism Spectrum Disorder Facing Difficulty Accessing
Medical Care and Reducing Parents' Psychological Burden

Fumiko Yamada
223J2951
Master of Arts Program in Positive Psychology
Master's Program in International Studies
International Graduate School of Advanced Studies
J. F. Oberlin University
Research Paper Supervisor: Rie Ishikawa

目次

第1章 序論	1
1-1 研究背景	1
1-2 用語の定義	2
1-3 本研究の目的	3
第2章 先行研究の検討	3
2-1 発達障害児の医療機関受診における困難要因	3
2-2 現在行われている支援とその課題	5
2-3 本研究の分析枠組み：自己効力感の理論	6
2-4 本研究の独自性と位置づけ	7
第3章 研究方法	7
3-1 対象	7
3-2 研究手法	8
3-3 評価方法	9
3-4 倫理的配慮	10
第4章 結果	10
4-1 事例1：トラウマによる医療場面全体への回避が見られた9歳男児（ASD）	10
4-1-1 基礎情報および受診困難の背景	10
4-1-2 介入プロセスと行動変容の段階的推移	11
4-1-3 介入の結果（A氏の行動変容と保護者の心理的变化）	14
4-1-4 まとめ	15
4-2 事例2：広範な回避傾向を示した5歳女児（ASD）	15
4-2-1 基礎情報および受診困難の背景	15
4-2-2 介入プロセスと行動変容の段階的推移	15
4-2-3 介入の結果（B氏の行動変容と保護者の心理的变化）	19
4-2-4 まとめ	19
4-3 事例3：身体的拘束のトラウマと感覚過敏を持つ4歳男児（ASD・ADHD）	19
4-3-1 基礎情報および受診困難の背景	19
4-3-2 介入プロセスと行動変容の段階的推移	20
4-3-3 介入の結果（C氏の行動変容と保護者の心理的变化）	24
4-3-4 まとめ	24
4-4 事例4：母親単独での受診が困難であった10歳男児（ASD）	25
4-4-1 基礎情報および受診困難の背景	25
4-4-2 介入プロセスと行動変容の段階的推移	25
4-4-3 介入の結果（D氏の行動変容と保護者の心理的变化）	28
4-4-4 まとめ	29
4-5 保護者の心理的変容と共通したニーズ	29
第5章 考察	32
5-1 遊びがもたらす児への効果：自己効力感の獲得プロセス	32
5-2 親の心理的負担の軽減プロセス	38

5-3 受診支援パスポートの有効性と可能性	40
5-4 介入プロセスの汎用性と心理的安全性の管理指針	42
5-5 本研究の限界と今後の展望	43
第6章 結論	43
謝辞	44
引用・参考文献	45
資料1 HPS アンケート	48
資料2 受診パスポート	50

近年、診断基準の変化や社会的認知の向上に伴い、自閉スペクトラム症（ASD）や注意欠如・多動症（ADHD）等の発達障害を有する児は増加傾向にある。これらの児は感覚過敏やイマジネーションの障害による予期不安から、日常的な医療機関への受診において著しい困難を示すことが多い。実際の臨床現場では、多忙な業務や専門的支援の不足から、安全確保を最優先とした身体抑制が行われやすく、これが児のトラウマ形成や保護者の心理的負担を増幅させている。

本研究の目的は、受診困難を示す発達障害児に対し、ホスピタル・プレイ・スペシャリスト（以下、HPS）による遊びを用いた心理的支援を行い、その効果を明らかにすること、および介入知見を基盤に開発した「受診支援パスポート」の臨床的有用性を検討することである。

研究手法として、強い不適応行動により受診困難を抱える4組の親子を対象に、感覚特性を活用した遊びや視覚的構造化等の介入を行った。全4回から16回の介入プロセスを、行動観察および保護者への調査に基づき質的に分析した。

介入の結果、第一にHPSの支援は、児の受動的な身体抑制の体験を能動的な成功体験へと転換させる効果が認められた。児は自己効力感を獲得して主体的に受診に参加することが可能となり、本来なら全身麻酔下での処置が検討される症例においても、覚醒下での安全な治療完遂に寄与した。これは、本研究の介入が医療安全の確保や身体的侵襲の低減という医学的側面においても高い有用性を持つことを示している。

第二に、保護者の心理的負担が著しく軽減された。HPSが擁護者として機能し、モデリングを通じて親の対応スキルを向上させたことで、養育レジリエンスが高められた。親の安心感は児の情動安定に繋がり、親子間の相互作用を「負の連鎖」から「正の循環」へと変容させる決定的な要因となった。

第三に、開発した「受診支援パスポート」は、医療者間の情報共有を補完するだけでなく、学校現場等においても児の特性を代弁するセルフ・アドボケートとしての役割を果たした。これは、本ツールが地域包括ケアにおける多職種連携ツールとして汎用性を持つことを示唆している。

結論として、HPSによる直接介入とパスポートを用いた環境調整を統合したアプローチは、発達障害児の受診困難を解決するための有効な支援モデルである。

本研究は、地域の医療機関が合理的配慮を具体的な形で整備し、障害の有無にかかわらず誰もが公平に、かつ尊厳を持って医療にアクセスできる分け隔てのない社会を構築するための道筋を提示した。

引用・参考文献

- American Psychiatric Association (高橋三郎・大野裕 監訳) (2023). DSM-5-TR 精神疾患の診断・統計マニュアル. 医学書院.
- Bandura, A. (Ed.) (1995). Self-Efficacy in Changing Societies. (アルバート・バンデューラ (編), 本明 寛・野口 京子 (監訳) (1997). 激動社会の中の自己効力. 金子書房.)
- Claridge, A. M., Hajec, L. P., Montgomery, L. P. & Knapp B. M. (2020). Child and Parent Psychosocial Experiences of Hospitalization: An Examination of the Role of Child Life Specialists. *The Journal of Child Life: Psychosocial Theory and Practice*, 1(1).
- Fraatz, E., & Durand, T. M. (2021). Meeting the Needs of Children With Autism Spectrum Disorder and Their Families in Hospital Settings: The Perspectives of Certified Child Life Specialists and Nurses. *The Journal of Child Life: Psychosocial Theory and Practice*, 2(2).
- Getchell, K., McCowan, K., Whooley, E., et al. (2022). Child Life Specialists Decrease Procedure Time, Improve Experience, and Reduce Fear in an Outpatient Blood Drawing Lab. *Journal of Patient Experience*, 9, 1-7.
- Xu, Q., York, J. A., & Yuan, S. (2024). Trauma's Impact on Oral Healthcare: A Biopsychosocial and Trauma-Informed Approach. *Journal of the California Dental Association*, 52(1), 2426247.
- 入江啓輔・義村さや香・稲富宏之・他 (2021). 多職種における自閉スペクトラム症に対する支援の現状とニーズに関するアンケート—ASDのある人に対する支援の現状とニーズ調査—. *障害者歯科*, 42(2), 203-209.
- 石舘美弥子・加藤千明 (2024). 発達障害児が安心して受診できる物理的環境の検討—医療者の視点から—. *和洋女子大学紀要*, 65, 15-25.
- 大堀美樹・鈴木英子・高山裕子 (2023). 文献から見た発達障害児の支援者が直面する困難の分類. *日本健康医学会雑誌*, 32(1), 18-27.
- 大屋 滋・村松陽子・伊藤政之・坂井 聡 (2009a). 発達障害児者の医療機関受診支援に関する研究. 堀江まゆみ (編) 平成 20 年度厚生労働省障害者保健福祉推進事業報告書：発達障害者の地域生活における法的支援・医療受診支援・地域トラブル支援に向けた発達障害理解啓発・研修プログラムの開発, 15-46.
- 大屋滋・村松陽子・伊藤政之・他 (2009b). 発達障害のある人の診療ハンドブック～医療のバリアフリー. NPO 法人 PandA-J.
- 小川博敬 (2022). 行動的課題を伴う自閉症スペクトラム障害への支援の検討. 岩手県立大学大学院社会福祉学研究科博士論文.
- 小澤芳子 (2009). 知的障害者の受診における困難. *プライマリ・ケア*, 32(4), 242-245.
- 小室佳文・前田和子・長崎多恵子・沼口知恵子 (2005). 自閉症児・者の受療環境に関する家族のニーズ. *小児保健研究*, 64, 802-810.
- 坂爪一幸 (2012). 発達障害の増加と懸念される原因についての一考察—診断、社会受容、あるいは胎児環境の変化？—. *早稲田教育評論*, 26(1), 21-31.
- 図師良枝 (2018). 発達障がい児における歯科環境への適応の第一歩—行動変容を用いて—. *障害者歯科*, 39(2), 89-95.

鈴木香保利・小笠原 正・増田裕次（2023）．自閉スペクトラム症者における口腔内診査とポリッシングブラシによる歯面研磨のレディネス．障害者歯科，44(3)，223-233.

鈴木香保利・小笠原 正・増田裕次（2023）．初診時に口腔内診査で拒否行動を示した自閉スペクトラム症者へのトレーニングによる口腔内診査とポリッシングブラシの適応要因．障害者歯科，44(2)，131-142.

鈴木香保利・小笠原 正・富田美穂子・増田裕次（2022）．自閉スペクトラム症者における初診時の適応要因．障害者歯科，43(3)，193-201.

鈴木浩太・稲垣真澄（2017）．発達障害児(者)をもつ養育者のレジリエンス：尺度の開発と適用について．精神保健研究，63，63-71

鈴木のか・大久保功子・三隅順子（2013）．自閉症児の医療機関受診にまつわる親が感じた困難とその対処法．小児保健研究，72(2)，316-321.

鈴木ミナ子（2024）．発達障害のあるこどもに対する臨床看護師の対応困難経験の現状と課題．沖縄県立看護大学紀要，25，27-35.

玉川あゆみ・泊裕子（2020）．自閉症スペクトラム児の歯科診療における問題と支援に関する文献検討．小児保健研究，79(2)，184-191.

玉川あゆみ・竹村淳子（2023）．自閉スペクトラム症児の耳鼻咽喉科診療を円滑に進めるためのケアガイドの作成．大阪医科薬科大学看護研究雑誌，13，78-89.

玉川あゆみ・竹村淳子・泊 祐子（2021）．自閉スペクトラム症児の耳鼻咽喉科診療における問題と支援．小児保健研究，80(4)，477-484.

千葉県（n.d.）．受診サポート手帳．

受診サポート手帳／千葉県（閲覧日：2025 年 12 月 25 日）

傳田健三（2017）．自閉スペクトラム症（ASD）の特性理解．心身医学，57(1)，19-26.

坪見利香（2016）．発達障害児に対する看護実践に関する研修プログラムの開発．筑波大学大学院人間総合科学研究科博士論文．

坪見利香（2014）．発達障害に関する外来看護師の対応の困難さとコミュニケーション力．障害理解研究，15，21-28.

内閣府（2013）．障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（平成 25 年法律第 65 号）

中山陽子・松平千佳（2019）．ホスピタル・プレイ・スペシャリスト（HPS）による障害児・者の歯科治療への支援．小児の精神と神経，58(4)，327-336.

野高朋美・荒木田美香子（2017）．知的障害者が医療機関の受診を困難と感じるプロセス：保護者の意見から．日本看護科学会誌，37，225-233.

橋本創・神尾陽子・小谷裕実・他（2023）．発達障害医療の到達点と次の一步．発達障害研究，45(1)，23-30

発達障害者支援法（2004）．（平成 16 年法律第 167 号）

平田涼子・海原康孝・三宅奈美・他（2014）．歯科診療時における自閉症スペクトラム児の個々の特性に合わせた対応．小児歯科学雑誌，52(1)，90-96.

松平千佳（2017）．ホスピタル・プレイ入門—医療環境にある子どもへの遊びによる支援．診断と治療社．

村上旬平・米倉裕希子・新家一輝・他（2022）．親の心理的サポートニーズと健康関連QOL，育児ストレスの関連—親の心理的サポートを行う障害者歯科医療現場の構築に向けて—．障害者歯科，43(1)，17-25.

宮崎弘道・丸木和子（2021）．視覚支援の介入により適応行動を獲得した自閉スペクトラム症児の考究．障害者歯科，42(1)，67-72.

吉田友子（2014）．耳鼻咽喉科と自閉症スペクトラム．日本小児耳鼻咽喉科学会会報，35(3)，237-242.

吉松英樹・伊達岡聖・大本博樹・他（2022）．大阪歯科大学附属病院障がい者歯科外来における初診患者の実態調査．歯科医学，85(1)，52-57.